

## あそびの中の学びについて “登園した時から楽しいことが大事”

朝登園した時から、子どもたちのわくわくは始まっています。この日は、保護者の皆さんから頂いたどんぐりや空き箱を使って、ころころスライダーが用意されていました。子どもたちは早速、落としたり、転がって行く様子を見たりと、夢中で遊び始めます。同じコーナーで遊んでも、一人ひとりの興味や関心、気付いたり、試したり、発見したりしたものは違い、私たちの心も刺激されます。



いろいろな場面で  
子どもたち一人ひとりの学びの  
ストーリーが進行中



斜めになっている箱の中を覗いて、転がってくるどんぐりの様子を確認しています。



転がった先では、箱の中にどんぐりを並べようとしています。



わっかのトンネルをくぐり、転がって行く様子を楽しんでます。



転がる数によって音が違うことに気付いたのか、どんぐりの数を変えて転がしていました。また、もう一方では、どんぐりをキャッチしようと待ち構えています。

子どもたち一人ひとりの姿を見つめながら“こんなふうしたら、どうするかな？”と、思いを巡らせ準備しています。一人ひとりのあそび方は違っていても、好きなことを納得するまでできる、登園した時から切れ目のない、一日中が楽しい生活は、自分で考える思考力の芽生えや、友だちと協力して行動しようとする姿へと繋がる大切な経験だと思っています。 乳児園主任

